

# 流域コミュニケーション放送局による上下流交流活性化プロジェクト～木曽川流域～

背景……農山村の貴重な資源が過疎化により保全が困難になりつつある。この問題は都市と農山村の共通課題となりつつある。

現状と課題…①流域の自然環境保全を図り健全な水循環を確保するため、農山村の経済基盤の強化が不可欠。

②このため、上流地域と下流地域の人々の往来、商品の流通、生情報のやり取りを一層活性化する必要。

③現地に密着した活性化を進めるためには、流域の住民が情報発信する、市民運営のメディアの構築が必要。

## 目指すべき地方再生の全体

### ■取り組みのねらい

- ①交流を先導するエンジンとして、市民運営の「**流域市民放送局（RCBC）**」を開局する。
- ②RCBC活動を通じて、メディア人材の育成やローカルノリッジの発掘をする。
- ③RCBCと連携し、流域の環境保全と活性化を牽引する「**流域塾**」を開講する。
- ④RCBCによる販促と連動し、上流地域の物産の流通を活発にする「**流域メッセ“木曽ICHIBA”**」を開設する。
- ⑤農山村の経済的基盤を強化する。
- ⑥都市の消費システムや食(文化)、生活の見直しと変革。

### 実施スケジュール

- H21. 7: プロジェクト推進会議設立
- H21. 8: 全体的方針の確定  
RCBCの立ち上げ  
流域塾開催準備  
流域メッセの具体化検討
- H21. 10: RCBC放送開始
- H21. 10: 流域メッセ開設
- H21. 10/24: 第1回流域塾(実況)
- H21. 12/13: 第2回流域塾(実況)
- H22. 2: 第3回流域塾(実況)  
RCBCの課題検討  
流域メッセの販促効果検討
- H22. 3: プロジェクト評価  
報告書作成
- H22年度: 事業のバージョンアップ  
・RCBC  
放送期間延長、市民記者の増大  
ケーブルTVとの連携  
・流域塾の充実、参加自治体の増大  
なごや環境大学との連携  
・流域メッセの充実、出展者の増大  
コラボによる商品開発
- H23年度以降: RCBCの自立化  
・ケーブルTVとメディア連携  
・流域塾と他の学校との連携  
・メッセと現地店とのネットワーク化

### ■主な取り組み

#### 地方の元気再生事業

#### 取り組み①…「流域市民放送局」の開局(スターキャットミリオン座TVスタジオ内)

- ・内容: 市民記者団を結成し、流域の事柄を取材・編集し、定期的に映像ネット配信。
- ・効果: メディア人材の育成、ローカルノリッジの発掘、地域資源の開拓、NPO収益源

#### 取り組み②…流域塾の開講(実況放送)

- ・内容: 市民、企業、行政等の参加を得て、流域内5箇所でRCBC生中継の意見交換会
- ・効果: 流域関連施策の牽引、流域の一体感醸成  
RCBC視聴者の増大

#### 取り組み③…流域メッセの開設(浄心店舗)

- ・内容: 流域内農産物等の物産販売、流域体験プログラム紹介、RCBCによる販促と連動
- ・効果: 物産販売の仕組み提供、マーケティング、農山村の具体的な収入の増大

#### 22年度以降の展開

- ・RCBCの経営基盤(スポンサー、広告、会費)の強化
- ・ケーブルTVとメディア連携、COP10でアピール
- ・流域塾の継続、他学校との連携
- ・流域メッセの継続、コラボ商品の提供
- ・流域ミュージアムのネットワーク化

#### 地方再生の目標像

- ・自然環境の保全(水源林、水循環)
- ・農山村の経済力向上(収入、雇用、起業)
- ・市民メディアの確立(RCBCの自立)